



自然遊学館 だより

2008 SPRING

No. 47



■2008.4.15 発行 貝塚市立自然遊学館

■行事レポート

- 七草摘み・・・・・・・・・・・・・ 1
- 近木川河口打ち上げ貝拾い・・・・・・ 1
- 千石荘バードウォッチング・・・・・・ 2
- 自然遊学館の友だち集まれ・・・・・・ 4

■生きものよみもの

- 野鳥に毎日会えるガーデンウォッチ
一庭に野鳥を呼んでみようー・・・・・・ 5
- セグロカモメが死んだわけ・・・・・・ 7
- 貝塚市のバッタ目は何種？・・・・・・ 8

■館長コーナー

- 春3. 潮干狩り・・・・・・・・・ 10

【泉州生きもの歳時記】

- ハバチ・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

■投稿

- 貝塚市立中央小学校ビオトープ池の生きもの調査
(岩田 昇)・・・・・・ 13
- 浜辺での打ち上げ物拾い(江本大地)・・・・ 14

■寄贈標本の紹介・・・・・・・・・15

■遊学館スタッフ日誌・・・・・・・・・17

■おしらせ・・・・・・・・・17

生き物切り絵展

スナメリ展は関空交流館へ

「貝塚の自然第10号」発行

表紙のクマゼミのイラストは貝塚市立二色小学校
5年生の木室仁太さんが描いたものです。



■行事レポート

七草摘み

場所：蕎原ほの字の里周辺

日時：2008年1月6日（日）11:00～13:30

参加者 43 人

水鉄バス時刻が変更されたことの連絡がうまくゆかず、一部の方に集合場所でお待たせしてしまい、冒頭にお詫びしました。アブラナ科のナズナ（キク科と同じようなロゼット状で、まだ茎が伸びていないから見分けがつきにくい）とキンポウゲ科のキツネノボタン・ウマノアシガタ（セリやミツバとよく似ているが有毒）を、あらかじめ採集しておき、皆さんによく見ていただきました。

人数が多いので、白木班と湯浅班の2組に分かれ、少し距離を空けて出発しました、畑の隅に咲いているハハコグサが、黄色い花をつけているのにとっても背が高く、近年広がっているセイタカハハコグサかどうか（セイタカハハコグサなら花は茶褐色）判断がつきませんでした。



田んぼの畦で七草を探しています

蕎原の田んぼでコオニタビラコ（ホトケノザ）を採集しているときに、遅れて参加の方も合流できました。風もなく、歩いているとだんだん暑くなってくるほどお天気に恵まれ、なかなか見つからなかったハハコグサも、ほの字の里への登り坂前広場で採集、全員が5種類を手に入れ、ほの字の里内食堂で、おいしい漬け物付き七草粥をいただきました。

解散の折、川村自然遊学館長が畑で栽培したダイコンとカブラを、皆さんにもらっていただきました。参加者のお宅では、翌日の朝「七草ナズナ 唐土^{とうど}の鳥が渡らぬうちに」とまな板を叩きながら、〇〇家流七草粥を作られたことでしょう。

（白木 江都子）

近木川河口打ち上げ貝拾い

場所：自然遊学館多目的室

日時：2008年2月9日（土）13:00～15:30

参加者 23 人

昨今は暖冬傾向によるものなのか、ここ泉州地方の沿岸部では冬でも雪が降り積もることはめったとありませんが、あいにく当日はお昼に向かって小雪の舞い積もる天候になりました。そのため、近木川河口での打ち上げ貝採集は中止して、室内での実習のみを行いました。

午前中に館スタッフの白木、湯浅が近木川河口で拾い集めた貝殻を講師の児嶋格先生による指導の下、種類ごとに分ける作業を参加者に挑戦してもらいました。貝殻を

手に持ち、いろいろな角度から形を見て、「この貝とこの貝は一緒やなあ」、「違うなあ」とガヤガヤ言いながら分けていった結果、26 種類の貝がありました（右表）。この中でヒメエガイは近木川河口で今回初めて記録された貝殻です。



思いのままに貝殻を紙皿に貼り付ける

その後は、貝殻を使っての工作を行いました。種類分けした貝殻に加えて、児嶋先生の持参して頂いたサクラガイなどの色どりのきれいな貝殻を紙皿に自由に貼り付けて作品作りを楽しみました。



男の子の作った作品「顔」

近木川河口右岸前浜に打ち上げられた貝

2008/2/9 採集(40分間) 白木、湯浅

和 名		
海産	ユキノカサガイ科	クモリアオガイ
	ニシキウズ科	コシダカガンガラ
		イシダタミ
	カリバガサガイ科	シマメノウフネガイ
	タマガイ科	ツメタガイ
	アッキガイ科	イボニシ
		アカニシ
	ムシロガイ科	アラムシロ
	フネガイ科	ヒメエガイ
		サルボウガイ
	イガイ科	ムラサキイガイ
		ホトギスガイ
	ナミマガシワ科	ナミマガシワ
	イタボガキ科	マガキ
	ザルガイ科	トリガイ
	バカガイ科	バカガイ
	チドリマスオ科	クチバガイ
	ニッコウガイ科	ヒメシラトリガイ
	マテガイ科	マテガイ
	マルスダレガイ科	オニアサリ
		カガミガイ
		アサリ
	オオノガイ科	オオノガイ
淡水産	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ
陸産	オナジマイマイ科	クチベニマイマイ
		オオケマイマイ
計		26種

(山田 浩二)

千石荘バードウォッチング

場所：千石荘

日時：2008 年 2 月 23 日（土）10:00～12:00

参加者 33 人

当日になっても天候が危ぶまれましたが、決行することになり、川村自然遊学館長の挨拶で始まりました。講師にお招きした和田岳大阪市立自然史博物館学芸員やスタッフの紹介に引き続き、撮影に来られたジェイコムりんくうケーブルテレビのカメラマン、貝塚市役所交流推進課広報係の方も挨拶

撓されました。谷間の地道に入ると、おなじみヒヨドリの鋭い声やハシボソガラスの間延びた声、まだ上手ではないウグイスの声などがさかんに聞こえてきました。千石堀城址に登って各自双眼鏡を覗いているとき、坪井章応吾さんが小さな羽を拾いました。「フクロウの羽です」と和田さん、「えっ、こんな所にフクロウがいるんですか？」とみんなびっくり。



千石荘でのバードウォッチングの様子
(手前右端が和田先生です)

尾根道を1列に並んで歩き、ボタン池に向かいました。ボタン池の水際で、アライグマの足跡探しや、ドブガイ、ヒメタニシを観察していると空が黒くなって雨が降り始め、強風が吹き、雨具を出す間もなく土砂降りになりました。先ほどまで飛んでいた鳥は隠れてしまい、トビだけが何故か強風に逆らい、必死に飛んでいました。急いで大木の下に雨宿りし、止む雨か、止まない雨か意見が分かれたましたが、雨の中でもカヤネズミの巣を見たいという人たちが残り、濡れて寒くなった人たち6、7人が帰られました。

しばらくすると雨が上がり、森から飛び出して空を舞うノスリ・ミサゴをボタン池の土手から双眼鏡で追っていた人たちの中には、一瞬でしたがオオタカを見た人もいました。

カヤネズミの巣（空巢）を見に鳶ヶ崎池へ行った人たちは、土手のチガヤ群落の中に丸い巣を見つけ、一方では遠方の木にじっととまっているミサゴを見つけ、望遠鏡を持っている人がばっちり取り込んで、全員がじっくり観察できました。

千石荘で確認した鳥

カワウ・コガモ・マガモ・アオサギ・トビ・ミサゴ・オオタカ・ノスリ・バン・キジバト・コゲラ・シジュウカラ・エナガ・メジロ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ツグミ・シロハラ・アオジ・ホオジロ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ツグミ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ

午後からは強風の中、もう一度集まって来られた熱心な参加者と、近木川河口へ出かけました。カワウ・シロチドリ・イソシギ・ハマシギ・イソヒヨドリ・カモメ・セグロカモメ・ヒドリガモ・ホシハジロ・ハクセキレイ・キジバト・ドバトなどを干潟で確認した後、潮騒橋から永久橋までの周回コースで、コガモ・カルガモ・マガモ・ヒドリガモ・オカヨシガモ・ハシビロガモ・ダイサギ・コサギを観察しました。コサギがフグをくわえ、飲み込もうとしているのを見て「毒だよ！」と人間たちは騒ぎましたが、平然と食べてしまいました。ほかに、アオサギ・カワセミ・ヒヨドリ・ツグ

ミ・メジロ・アオジ・スズメ・ムクドリなどが確認されました。

講師の和田岳さんをはじめ、事前に何度も訪れて情報を下さった食野俊男さん・石井葉子さん、ありがとうございました。

(白木 江都子・湯浅 幸子)



牛乳パックを使っのホットドッグ作り

自然遊学館の友だち集まれ

場所：自然遊学館

日時：2008年3月22日(土) 13:00～15:30

参加者 20人

子どもたちの、この一年の成果発表会をしました。「生きものと自然に関することで、見つけたり、調べたり、拾ったりしたことなど、色々発表して下さい。」

セミの羽化観察、貝収集、身近な鳥の観察、好きなザリガニの話、ダンゴムシを見つけた話、魚の写真発表など、色々でした。その後、スナメリ展会場で、館スタッフの山田からスナメリについての話を聞きました。次は、生態園海浜植物コーナーで植生調べをしました。4月から一部、定期的に海水を散布して、海浜植物の生育度を調べます。

最後はみんなで館長直伝の牛乳パックを使ったホットドッグ作りをして、おいしくいただき、一年間を締めくくりました。

＜海浜植物コーナーの植物＞

海浜植物（移植）

くまつばら科：ハマゴウ ひるがお科：ハマヒルガオ
せり科：ハマボウフウ まめ科：ハマエンドウ
かやつりぐさ科：コウボウムギ・コウボウシバ

その他の植物

きく科：セイヨウタンポポ・アカミタンポポ・ノゲシ
ごまのはぐさ科：フラサバソウ しそ科：ホトケノザ
むらさき科：キュウリグサ かたばみ科：カタバミ
ふうろそう科：アメリカフウロ まめ科：コメツブウマゴヤシ・カラスノエンドウ・スズメノエンドウ
けし科：ナガミヒナゲシ なでしこ科：マンテマ いね科：スズメノカタビラ

(湯浅 幸子)

■生きものよみもの

野鳥に毎日会える

ガーデンバードウォッチ

一庭に野鳥を呼んでみようー

ベランダでもどんなところでも、バードフィーダー（餌台）とバードバス（水浴び台）を作ることによって簡単に鳥達を呼び寄せることができます。バードフィーダーを作ることによって餌が不足する冬(11月から4月まで)に鳥達にエネルギーを与え、翌年の子育ての時に多くの卵を産むことができます。渡りのためのエネルギーを蓄えることもできます。

また、乾燥した都会でバードバスによって飲み水を得ることと、水浴びをして体についた汚れが取れ、体を清潔に保つ手助けができます。

庭に鳥を呼んでみると窓から簡単にバードウォッチングができ、鳥の識別や色彩、行動などについてもつぶさに観察することができます。ここではその方法について紹介しましょう。

＜ペットボトルでバードフィーダー作り＞

350ml や 500ml のペットボトルを使ってシジュウカラを呼び寄せることができるバードフィーダーが簡単に作れます。

- ① ペットボトルのキャップを上置き、底の部分に両側にはさみで穴を開け、割り箸を通します。割り箸は鳥の止まり木になります。
- ② 止まり木のある側面の止まり木の少し上に小さなひまわりの種が通るくらいの

穴をはさみで開けます。

- ③ ペットボトルの上部の側面にごびょうで穴を開け針金を通します。
- ④ キャップからヒマワリの種を満タンに入れます。

これを庭の木やベランダなどにぶら下げて出来上がりです。なぜ、ぶら下げるのかというとネコがやって来ると鳥を食べてしまうので鳥が安心して餌を食べることができません。ぶら下げるときはネコの届かないところにしましょう。



＜牛乳パックでバードフィーダー作り＞

500ml の牛乳パックでもバードフィーダーを作ることができます。大きな牛乳パックだとカラスがやってきて近所に迷惑がかかってしまうことがあるので小さな牛乳パックで作しましょう。

- ① 牛乳パックを洗ってよく乾かします。
- ② 牛乳パックの側面の4面を四角くはさみで切り取ります。
- ③ 牛乳パックの上部をホチキスで留めて屋根を作ります。
- ④ ホチキスを避けて上部にぶら下げられるように穴あきパンチで穴を二箇所開け

ます。

⑤ 針金や糸などを通してできあがり。

これを同じように庭の木やベランダなどにぶら下げて出来上がりです。



＜バードフィーダーで与える餌＞

では、餌台にどんな餌を置いたらよいでしょうか。バターピーナツやヒマワリの種、カキやミカン、リンゴなどの果物を置くだけでも鳥達はやってきます。

砂糖水やジュースなどを与えると花の蜜が好きなメジロやヒヨドリなどがやってきます。草の種などを集めてきてあげてもいいですね。

ホームセンターやペットショップに行くとミルワームというゴミムシダマシの幼虫やその粉にしたものピーナツの粉やアワなども売っています。

ご飯の残りかすやパンなどはドバトやカラス類がやってくるので避けましょう。ご近所に迷惑になってしまうことがあります。もし、与えたい場合はバードフィーダーに大きな鳥が通過することができないような網やネットを掛けましょう。

＜バードケーキの作り方＞

ちょっと、ひと工夫してヨーロッパやアメリカで鳥達に与えられているバードケーキを作ってみましょう。

バードケーキの 10 個分

＜材料＞小麦粉 250g、砂糖 50g ラード 125g
(廃油のてんぷら油で代用してもいいです)、バターピーナツ 50g

- ① バターピーナツをビニール袋に入れてかなづちなどでたたき細かくします。
- ② ボールに砂糖と小麦粉、砕いたバターピーナツを入れてよくかき混ぜます。
- ③ ラードはお湯で液状に溶かしておきます。
- ④ ①のボールにラードを少しずつ加えまとまるくらいになったら、丸くまとめます。
- ⑤ 1 つずつラップに包んで冷凍庫で保存しておきます。与える際に解凍してから与えます。

＜バードバスを作ろう＞

バードバスは一年中設置することができます。バードバスは鉢の受け皿や浅い容器なら何でも使うことができます。タッパーなどでも大丈夫です。やはりネコがやってくると困るのでレンガを積んで高い位置においたり、穴を開けて、吊り下げたりしましょう。必ず新鮮な水を入れてあげて、水を貯めたままにしないようにしてください。カの発生源にもなってしまいます。

水の深さはやって来る鳥のふしよ（足の長さ）より浅くなければいけません。街中にやって来る鳥でしたら 15mm くらいの深

さにしてあげるとよいでしょう。滑り止めに底に金魚鉢でつかうような細かい砂利を引いてあげてもよいでしょう。

このようなバードフィーダーとバードバスを作ってもしばらくは鳥達がやってこないかもしれません。しかし、心配しないで一週間くらい我慢してみてください。鳥達は用心してまだ、やってきていないだけかもしれません。

もし、鳥達がどうしてもやってこないようでしたら質問してきてください。

街中ではシジュウカラやスズメ、キジバト、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、ツグミなどいろいろな鳥がやってきます。慣れてきたら図鑑を持ち出して鳥を識別してみたり、写真や動画を取っても楽しいですよ。

<参考資料>

藤本和典 (2007) 野鳥を呼ぶ庭づくり. 新潮社.

柚木修 (1995) 窓辺に作るバードガーデン. 雄鶏社.

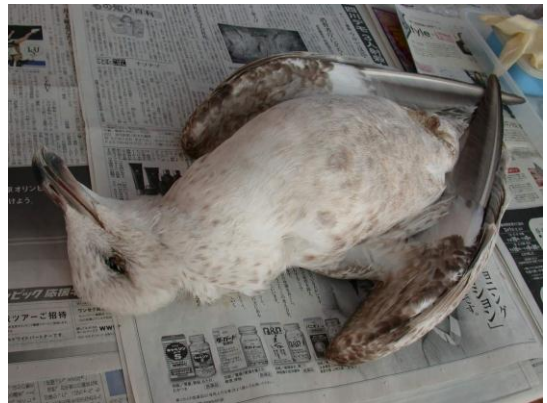
(宮本 久美子)

セグロカモメが死んだわけ

自然遊学館では、交通事故死した動物や窓ガラスへ衝突して死んだ鳥など、野生動物の死がいを引き取り、標本にして残す活動をしています。標本はその生きものがいっどこに生息していたかを記録する有力な証拠です。また、解剖することで死因や栄養状態なども知ることができます。

3月21日、「海浜緑地でぐったりしていた大きい鳥が運び込まれたが、死んでしま

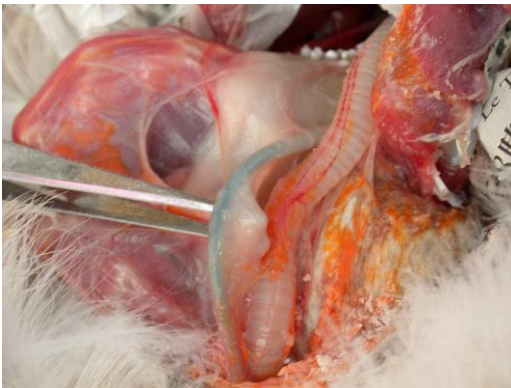
った」と連絡がありました。鳥は窓ガラスにぶつかっても、軽い脳しんとうの場合段ボール箱に入れて静かな部屋で休ませると回復するときもあります。死んだ鳥は目から少し血がにじんでいた、とのことで、何かにひどくぶつかったのだらうと思いました。



翌日、仮剥製（保管のためのコンパクトな剥製）を作るために準備をはじめました。最初の仕事は撮影と計測です。野生動物の死がいはいつ手に入るか分からないので、記録はできるときにできるだけとっておくのです。体重は862gでした。かなりやせています。餓死かもしれません。次にのどにティッシュを詰めるためくちばしを開きました。解体中に体内から出てくる血で羽根を汚さないためです。しかし、口の中を覗き込むと左の上あごが変です。硬く、でこぼこと黒っぽくなっていて、所々やぶれて黒い皮膚のようなものが見えます。外側から羽根をめくると、皮膚がもりあがり腫瘍のよう。死んですぐ冷凍しているのに妙に臭いし、鳥もガンになるのでしょうか？それとも釣り針がのどに刺さったのかな？ふ

と首筋をさわると、なにか骨のようなものが食道からまっすぐ体の中に向かって通っています。何だかいやな予感がしました。

鳥の胸には、翼を羽ばたかせるための筋肉がついています（いわゆる胸肉の部分）。しかし、体重の中でも大部分を占めるこの筋肉がこの鳥にはほとんどなく、かつて脂肪だったらしいオレンジのうすい膜が張り付いているだけで、皮下脂肪もまったくありません。体を開いてまた驚きました。内臓は萎縮し、胃袋だけがまっすぐ肛門の近くまで押し下げられています。おそろおそろ胃壁を開いたら、まるまった針金の頭が見えました。



このセグロカモメは、うっかり飲み込んだ針金が運悪く胃袋で止まってしまったのです。吐き出そうとしましたが、のど側の先端が頭骨にぶつかって止まってしまいました。何とかその部分を守ろうと皮膚が厚く堅くなったものの、餌を取ることもできず、雑菌が入って傷口が壊死し、衰弱して死んだのでしょう。目からの出血も、何かのきっかけで針金の先端が裏側から眼球を傷つけたからとわかりました。

釣り針やテグスにからまり、野鳥が死ぬことは知られています。しかし、死因が体の中に飲み込まれてしまうと、外からではまったく見えません。

『錆びるから大丈夫』と何気なく捨てることも多そうな針金。一体何が命取りになるのかわからないのです。この剥製は、針金の入った内蔵とともに、人間のゴミへの警告の意味をこめて展示しようと考えています。

*セグロカモメ幼鳥データ<自然翼長：455mm
尾長：201mm 翼開長：1544mm ふしよ：69.3mm 全長：603mm 露出嘴峰：56.4mm 全嘴峰：74.3mm 頭骨長（嘴先端から後頭部まで）：133mm>

（西澤 真樹子）

貝塚市のバッタ目は何種？

バッタ、コオロギ、キリギリスなどを含むグループをバッタ目^{もく}といいます。その他、コロギスやカマドウマといったややマイナーなグループも含まれます。貝塚市には、バッタ目は何種いるのでしょうか。

参考のために、2006年に発行された「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」では、大阪府のバッタ目^{しゅぐん}が124種（種群）となっています。

自然遊学館では2003年に、創館^{そうかん}10周年を記念して、貝塚市の動植物リストを発表しました。この中でバッタ目は、自然遊学館所蔵標本として84種、大阪府大農学部昆虫学教室に保管されている標本として3種、

鳴き声および目撃記録として3種、計90種がリストアップされています(岩崎, 2003)。

この90種の中には、二色の浜で1978年以来確認されておらず、「大阪府レッドデータブック」で絶滅種に指定されているヤマトマダラバッタが含まれています。

先の動植物リストの発表から4年が経ち、貝塚市のバッタ目として、5種が新たに追加されたので、ここに紹介します(和名、科名、学名、採集日、採集場所、個体数、雌雄(成虫)、採集者、寄贈者の氏名を記しました)。

ヒメクダマキモドキ (ツユムシ科)

Phaulula macilenta Ichikawa

2006年8月25日 大川 1♀

コガタコオロギ (コオロギ科)

Velarifictorus ornatus (Shiraki)

2005年7月15日 蕎原 1♀

キンヒバリ (ヒバリモドキ科)

Natula matsuurai Sugimoto

2006年6月24日 千石荘 1♂

ウスモンナギサスズ (ヒバリモドキ科)

Caconemobius takarai (Oshiro)

2007年9月17日 二色中町 2♂

(逸見茂樹氏採集: 桂孝次郎氏寄贈)

2007年10月7日 二色中町 1♂1♀

(逸見茂樹氏採集: 桂孝次郎氏寄贈)

モリヒシバッタ (ヒシバッタ科)

Tetrix silvicultrix Ichikawa

2005年6月30日 和泉葛城山 1♀

この中では、キンヒバリとコガタコオロギがいわゆる普通種で、特にキンヒバリは、自然生態園の「トンボの池」の周囲で、4

年以上も前から、シーズン中には鳴き声だけは聞いていました。



ウスモンナギサスズみ成虫

(2007年10月17日二色中町)

(右下のスケールは1cm)

和泉葛城山の山頂付近で採集されたモリヒシバッタは、2005年度の活動報告書である「貝塚の自然第9号」で、ヤセヒシバッタと誤同定してしまったものです。モリヒシバッタが載っていない検索表けんさくひょうを使っていて(結果として)、同定に自信がなかったのに、公表してしまいました。申し訳ありません。今回、先の大図鑑の編集委員であり、同種の記載者である市川顕彦さんに標本を送り、モリヒシバッタと同定していただきました。

以上の結果から、現時点では、貝塚市で確認されたバッタ目は95種ということになります(先の大図鑑では、キリギリスがニシキリギリスとヒガシキリギリスに分けられていますが、自然遊学館所蔵標本では、区別がむずかしく、1種として数えました)。大阪府内の他の場所での採集記録を参考にとすると、貝塚市のバッタ目の種数は、もう少し増える余地があると思います。

科の分類および学名は、「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」に従いました。同定および解説をいただいた市川顕彦氏に謝意を表します。誌面の都合により、貝塚市のバッタ目リストは、「貝塚の自然第 11 号」にて発表する予定です。

参考文献

- 岩崎 拓 (2003) 貝塚市の直翅類. 「貝塚の自然 - 貝塚市立自然遊学館創館 10 周年記念号 -」、pp. 28-45.
- 岩崎 拓・山田量崇 (2006) 貝塚市内で採集された昆虫 (2005 年度登録分). 貝塚の自然第 9 号: 254-265.
- 大阪府 (2000) 「大阪府における保護上重要な野生生物 - 大阪府レッドデータブック」、442pp.
- 日本直翅類学会編 (2006) 「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」、687pp.、北海道大学出版会.

(岩崎 拓)

し、3 月の始めは地球温暖化とはいえまだ冬なのです。それに肝心の潮位は昼にはさほど下がらないのです。冬の間は大阪湾では満月や新月のときは 0 時ごろが最大干潮（正確には若干のずれがあるのですが）となります。冬真っ只中の 12 月のそのときは 1 年間で一番の干潮を迎えます。しかし、昼はいくら大潮といってもほとんど引きません。それが春の彼岸を過ぎますと、昼にも少し大きな干潮が生じます。それで潮干狩りが出来るのです。



近木川河口干潟のアサリ

■館長コーナー

春 3. 潮干狩り

「寒さ暑さも彼岸まで」といわれますが本当にその通りです。春の彼岸になりますと厳しい寒さはなくなります。それまで屋内で過ごす時間が長かったけれど、彼岸前後には屋外に出る機会も多くなってきます。菜園の仕事も多くなります。冬から春が一足飛びにやってきます。

その彼岸が来るのを待ちきれず 3 月ともなりますと、海に行きたくなります。「潮干狩り」です。体内時計が誘うのです。しか

昨年一昨年にも出遅れたのです。大阪湾一帯のアサリなどに貝毒の価が高くなったからです。だから今年も慎重になってアサリ採りをしませんでした。ところが、貝毒の発表がなかったものですから、4 月になって潮干狩りをしようとしたところ、もう既に掘り返してあり、いくら掘ってもほとんど出てきません。私の穴場である岬の長松海岸は完全アウトです。近木川河口の干潟はタコの餌にと少し掘り返しましたら、若干出できました。

潮干狩りは場所によってそのとり方が大きく違います。私の穴場などは岩に挟まれ

た場所で、石ころなどが多いためしっかりした 1 本の鉄棒が最適です。その鉄棒の先を 90 度に曲げたものを使います。近木川河口などはやわらかい砂ですから熊手のようなものの方がいいように思います。潮干狩りもこのような道具でするのが面白いです。ジョレン様のものになりますと、楽しさより量の確保になってしまいます。(それもしてみたいですが)



近木川河口

とにかく収獲した貝を何回もこすり合わせて洗い、ペットボトルなどに海水を入れて持ち帰り、砂を吐かせます。このときかなりの深さのある容器か蓋をしないと水管から海水が噴射され瞬く間に海水がなくなってしまう。聞けばアサリ 1 個が 1 日に噴射する海水の量は 10 リットルと教えてくれました。あの小さな体でそれだけの海水を吸い込み養分を濾しとり、不用な海水を吐き出す、なんと頑張り屋なのでしょう。まさにアサリさんに脱帽です。



近木川河口干潟

砂を吐かせたアサリを汁にして食べますが、食べるときにその模様を観察します。模様と DNA などとの関係についての研究はないようですが、採る場所で同じような模様があることから、関係はないともいえなようです。ともあれ今年はお出遅れてしまいました。5 月になって今の稚貝が大きくなる頃先駆けて採ることにしようと決意しています。

それにしても 4 月上旬は桜の追っかけ、中旬は新緑狩り、下旬は山菜採りと多忙な季節がやってきました。

(川村 甚吉)

【泉州生きもの歳時記】

ハバチ 景峰

春は虫たちが活動を始める時期です。活動を言い換えると、摂食・交尾・産卵です。で、改めて春の虫は何かと言われると、なかなか思いつきません。4 月から鳴き始めるハルゼミの標本が当館に無いことを思い

出したくらいです。これが夏なら、カブトムシ、クワガタムシ、クマゼミ、アブラゼミ、・・・、とどんどん思いついていきます。
 歳時記と銘打ったコーナーなので、なんとかひねり出さないといけません。そこでハバチにしました。「なんとか」はハバチに失礼ですね。



図 1. キコシボソハバチ
 (2002 年 4 月 20 日 貝塚市馬場)

まずは上の写真をご覧ください。同じハチ目のベッコウバチ、アシナガバチ、アリなどと違って、ハバチの仲間は腰がくびれていません（それでもハバチの中では腰が細いのか、名前にコシボソが入っているくらいです）。腰が太いのは腹の先に針を持っていないことと関係があるのでしょうか。ハバチは刺さないハチなのです。幼虫は漢字が示しているように、植物の葉を食べます。そして、ある特定の植物しか食べないという種が多いのです。いわば、偏食のベジタリアンなのです。

----- . ----- . ----- . -----

2003 年に発行した自然遊学館の 10 周年リストでは、貝塚市のハバチ類は 4 種しか記録されていません。これは「かなり恥ず

かしい」リストです。創館以来、チョウやトンボを熱心に調べて、そこまで手が回らなかったこともありますし、採集した標本を同定できなかったことも原因の 1 つです。

2006 年に西日本ハチ研究会から当館へ、吉田浩史さんがまとめられた「大阪府のハバチ・キバチ類」という図鑑を寄贈していただきました。写真もあり、検索表（＝種類調べのためにチェックすべき形質をまとめたもの）もあり、解説もある優れた図鑑です。この図鑑を使って当館所蔵のハバチ標本の同定（＝種類調べ）をして、先の 4 種から 22 種に増えました（表 1）。

表 1. 貝塚市のハバチ亜目
 貝塚市立自然遊学館所蔵 2008年3月
 種まで同定できた分

科	種
ミフシハバチ科	ニレチュウレンジ
	アカスジチュウレンジ
	チュウレンジバチ
	カタアカチュウレンジ
	ルリチュウレンジ
コンボウハバチ科 ハバチ科	ホシアシブトハバチ
	ワラビハバチ
	オオムネアカハバチ
	オスグロハバチ
	フタホシハバチ
	カタアカスギナハバチ
	クシヒゲハバチ
	セグロカブラハバチ
	ニホンカブラハバチ
	カブラハバチ
	チャイロハバチ
	ツノキクロハバチ
	ヒゲナガハバチ
	オオクロハバチ
	クロハバチ
	ハラナガハバチ
	キコシボソハバチ

でも、その図鑑の解説を読むと、大阪府のハバチ類とキバチ類が11科196種と書いてあり、22種という数字も、恥ずかしいリストの域を脱していないのです。どれだけいたら気が済むのか、というぐらい昆虫の種数は多いのです。

当館所蔵で登録済みのハバチ標本は116個体で、そのうちの101個体が4月と5月に採集されたものです。春の虫と言っているでしょう。本誌40号で紹介したホシアシブトハバチのように、4月と5月の新緑の時期に幼虫と成虫が現れ、1年の残りを^{さなぎ}蛹で過ごすという種が多いのです。それは、春の山菜採りが待ち遠しい方のように、その時期が特に植物が「^{うま}旨く」感じられるからかもしれません。

参考文献

「大阪府のハバチ・キバチ類」(吉田浩史、2006)、
「貝塚の自然 -貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号-」(2003)

(岩崎 拓)

■投稿

貝塚市立中央小学校ビオトープ池の生きもの調査

<調査方法>

調査期間：2007年5月～10月

羽化殻調査

池内および池の周囲の植生などを観察し、トンボ目の羽化殻の観察、カウントおよび種の同定を行った。

水生無脊椎動物調査

調査対象となる池の岸から幅約40cmのD型フレームの水生昆虫網で、岸から1.5mの範囲を^{すく}掬い取り、5回掬い取るごとに白いバットに採集物をひろげ、ソーティングを行った。トンボ目幼虫については科、属、あるいは種まで、その他の昆虫および無脊椎動物については科もしくは目レベルまで原則として現地で同定を行い、個体数をカウントした後に池に放逐した。なお、現地での同定が困難な種については、持ち帰り同定した。上記のような調査を、1週間に1回行った。

<結果と考察>

9網15目27種類の水生動物が認められた(表)。昆虫網ではカメムシ目、コウチュウ目が5種類と、見られた種数が最も多かった。トンボ目で見られたのは、クロイトトンボ属、ギンヤンマ属の2種類のみでウスバキトンボを含むトンボ科の幼虫は見られなかった。その理由については、①産卵が行われなかった、②産卵は行われたが、その後捕食などの要因で死亡した、という2つが考えられる。特にこのビオトープ池では、池を作る際に放されたメダカが毎回高密度で確認された。6月25日に密度を測ったところ1m²あたり65個体であった。したがって、仮にトンボ科の産卵が行われていたとしても、メダカによってトンボ科は卵の段階で捕食された可能性が考えられる。クロイトトンボ属、ギンヤンマ属はいずれも植物の組織内に産卵することから、卵の段階で捕食されることを免れた個体が残ったと考えられる。



学校の中にある中央っ子池

プールよりもずいぶん小さな池ですが、さまざまな生きものが生活しています。

綱	目	種名
ヒル綱		ヒル綱sp.
	ウオビル目	ヒラタビル
腹足綱	有肺目	ハブタエモノアラガイ サカマキガイ
	基眼目	ヒラマキミズマイマイ
鰓足綱	ミジンコ目	マルミジンコ?
昆虫綱	トンボ目	クロイトトンボ属sp. アオモンイトトンボ属sp. ギンヤンマ属sp.
	カゲロウ目	フタバカゲロウ属sp.
	カメムシ目	ヒメアメンボ ヒメイトアメンボ ケシカタビロアメンボ チビズムシ コマツモムシ
	コウチュウ目	チビゲンゴロウ チャイロチビゲンゴロウ ハイロゲンゴロウ キイロヒラタガムシ ヒメガムシ
	ハエ目	ユスリカ科sp. アブ科sp.
クモ綱	ダニ目	ミズダニ類
エビ綱	エビ目	ミナミヌマエビ
硬骨魚綱	ダツ目	メダカ
両生綱	カエル目	ヒキガエル
貧毛綱	イトミミズ目	イトミミズ属sp.
	昆虫種数	16
	総種数	27

※本報告は大阪府立大学大学院生命環境科学研究科
緑地環境科学専攻緑地保全創成学講座で行った修
士論文の一部をまとめたものです。

(岩田 昇)

浜辺でのうち上げ物ひろい

ぼくはきょねんの12月19日から今年の3月までいろんな海がんで貝をひろいました。男里川に何回も行きました。カニをいろいろひろいました。ジュウイチトゲコブシをひろって自然遊学館にもって行ったら、めずらしいと言われました。ツノナガコブシが19ひきもとれた時もありました。

大きなタイワンガザミをひろって肉ぬきをしてひょう本も作りました。



海岸で拾ったカニを手にする大地さん

マボヤやアメフラシやナマコがうち上がっていました。

風が強い時になみが強くなって海のそこからうちあがってきます。生きているのは海にもどしてあげました。

貝はこんなのをとりました。

エゾマテ、アカニシ、ツメタガイ、サクラガイ、オキナガイ、キヌタアゲマキ、イタヤガイ、コモンダカラ、クチバガイなどです。サクラガイは近木川であまりとれないのに男里川ではよくとれます。

ぼくがもっているの、気に入っている

貝はヤツシロガイです。われているのをひろいました。われていたからつぎはわれていないのがほしいです。

ぼくが一番ほしい貝は、ホネガイです。これからいろいろな貝をひろいます。



男里川河口で拾った宝もの

(貝塚市立北小学校 3 年 江本 大地)

■寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2008 年 3 月分まで)

<哺乳類>

◆多田 理さんより

アナグマ 1 点

貝塚市大川 2007 年 10 月 2 日採集

◆河野通浩さんより

ヒミズモグラ 1 点

貝塚市蕎原 2008 年 1 月 6 日採集

<鳥類>

◆奥田 稔さんより

ハシビロガモ 1 点

貝塚市王子 2008 年 2 月 1 日採集

◆食野俊男さんより

ゴイサギ 1 点

貝塚市脇浜 2008 年 3 月 13 日採集

◆野村武雄さんより

セグロカモメ幼鳥 1 点

二色浜海浜緑地 2008 年 3 月 21 日採集

<爬虫類>

◆江本大地・玲子さんより

アオウミガメ甲羅 1 点

串本町打ち上げ 2008 年 3 月 28 日

<脊索動物>

◆江本大地・玲子さんより

マボヤ 1 点

男里川河口打ち上げ 2008 年 2 月 24 日

<甲殻類>

◆児嶋 格、鈴子佐幸さんより

コマチガニ 1 点

和歌山県南部漁港 魚網くずの中から

2008 年 1 月 13 日採集



◆鈴子佐幸さんより

ケブカヒメヨコバサミ 1 点

男里川河口打ち上げ 2008 年 2 月 11 日

ツノナガコブシ 1点

男里川河口打ち上げ 2008年3月23日

◆江本大地・玲子さんより

ツノナガコブシ 1点

男里川河口打ち上げ 2008年2月10日

オウギガニ 1点

男里川河口打ち上げ 2008年2月16日

ツノナガコブシ 19点

男里川河口打ち上げ 2008年3月2日

ジュウイチトゲコブシ 1点

男里川河口打ち上げ 2008年3月15日

ホシマンジュウガニ 1点

紀伊田原 海岸打ち上げ 2008年3月29日

◆新木陽一郎さんより

クロベンケイガニ 生体1点

岸和田市春木若松町 春木川ほとり

2008年7月15日採集

＜棘皮動物＞

◆青木邦男さんより

マナマコ 5点

二色浜海浜緑地 2008年2月29日採集

◆渡辺久和さんより

ヒモイカリナマコ 1点

近木川河口 2008年3月16日採集

＜軟体動物＞

◆鈴子佐幸さんより

ヘノジガイ 3点

男里川河口打ち上げ 2008年2月11日

＜刺胞動物＞

◆寺田拓真さんより

シミコクラゲ 10点

二色浜海浜緑地 2008年2月21, 23日採集



＜環形動物＞

◆渡辺久和さんより

チロリ 1点

二色浜 2008年3月15日採集

＜毛顎動物＞

◆寺田拓真さんより

ヤムシ 3点

二色浜海浜緑地 2008年2月21日採集

＜水生動物＞

◆森本静子さんより

Chordodes 属のハリガネムシ 成体1点

高槻市芥川 2008年2月8日採集

＜昆虫＞

◆西阪秀雄さんより

コガタスズメバチ 巣1点・成虫1点

貝塚市カンコ池 2007年12月29日採集

◆河野通浩さんより

ヒメツチハンミョウ 成虫1点

貝塚市蕎原 2008年1月6日採集

◆石井葉子さんより

ツヤアオカメムシ 成虫1点

貝塚市蕎原 2008年2月10日採集

◆森本静子さんより

アクリル封入標本

ネキトンボ、タカネトンボ、ホンサナエ
羽化殻、各1点

<植物>

◆石井葉子さんより

ヤマホウズキ

貝塚市蕎原 2007年12月19日採集



当館所蔵のアンモナイト化石（蕎原産）

■遊学館スタッフ日誌

2月4日 特別展「スナメリたちのすむ海・大阪湾」の展示に使用する偽岩を提供して下さるアトリエTMバーガー（貝塚市木積）を訪れ、井端社長直々に作業場を案内して頂きました。2月25日には、自然遊学館への搬入作業までしていただき、本当にありがとうございました。（山）

2月20日 今年度、季節ごとに行ってきた近木川での水質・プランクトン調査の最終回を行いました。歳を重ねるごとに研究意欲がパワーアップしている共同研究者の上之山さんの熱き想いに応えられるよう、我々若手がついて行くのに必死だったように思います。（岩）

■おしらせ

生き物切り絵展

貝塚の生き物を切り絵にしました。これまでの切り絵行事の作品、行事募集ちらしに連載中の「館長の目」の原稿も展示しています。ぜひお越しください。

期間：4月4日～5月18日

場所：自然遊学館多目的室

スナメリ展は関空交流館へ

3月に自然遊学館で開催していたスナメリ展は、場所をお隣の関空交流館（1階ロビー）に代えて、4月も引き続き開催中です。ぜひお越しください。

「貝塚の自然第10号」発行

3月7日に、自然遊学館の2006年度の活動報告書「貝塚の自然第10号」が発行されました。当館のほか、近隣の図書館および市内の公民館で閲覧できます。また、市内の小中学校にも配布しています。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2008 春号 (No. 47)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/index.htm>

発行日 2008.4.15

この小冊子は市内印刷で作成しています。